

かみ み 神さまが見ているよ

わたしはまた、エジプト人の奴隷となっている

イスラエルの人々のうめき声を聞き、

わたしの契約を思い起こした。

それゆえ、イスラエルの人々に言いなさい。

わたしは主である。

わたしはエジプトの重労働の下からあなたたちを導き出し、

奴隷の身分から救い出す。

腕を伸ばし、大いなる審判によってあなたたちを贖う。

そして、わたしはあなたたちをわたしの民とし、

わたしはあなたたちの神となる。

あなたたちはこうして、わたしがあなたたちの神、主であり、

あなたたちをエジプトの重労働の下から導き出すことを知る。

(出エジプト記6章5～7節)

先生もお父さんもお母さんもないとき、ちょっと小さい人にいたずらをしたり、いじめたりしたこと、
ない？そんなとき、

「神さまがみているよ」って言われたら、どうかな？ちょっとこわいかな？神さまが、

「だれも見ていなくても、わたしはいつもちゃんとして見ているよ。悪いことしちゃだめだよ。そうでないと、あなたに何か悪いことが起こるかもね。」

と言われたら、すこしおっかない感じだね。

今度は、逆に、だれも見ていないところで、強い大きな人にいじめられたら、いやだね。でも、そのときも

「神さまがみているよ」

と言われるとちょっと元気が出てきますね。

こう言われて、元気を出した人がいました。モーセという人です。今から3000年以上も前のころ、わたしたちの国は、縄文時代と呼ばれて、地面をすこし掘った竪穴の家で暮らしていたころ、遠くアフリカ大陸の北にあったエジプトという国は、大金持ちで大きな建物を石で造って、王様はたくさんの家来と兵隊を持っていて、とても威張っていました。

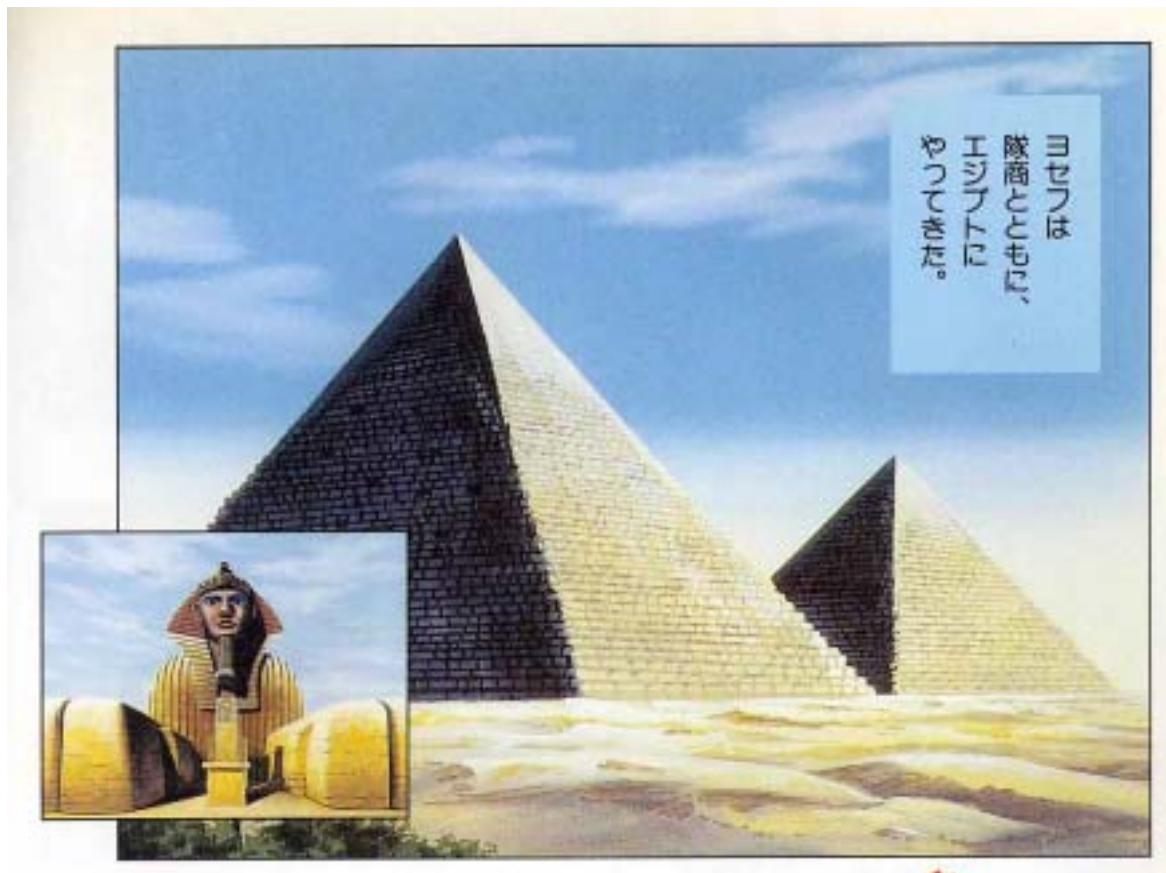
ピラミッドとかスフィンクスって、聞いたことある？

ピラミッドは、エジプトの王様のお墓のようなもので、大きな2.5トン」の石を350万個も積み上げて造るのだけれど、大きさは40階建のマンションの高さくらいに大きいのね。今でも、どのようにして

つくったのかかんがえられないほどの大きさです。それを今みたいにクレーン車やブルドーザーなんてないから、毎年、夏に氾濫するナイル川の洪水で畑仕事が出来なくなった農民や、よその国から連れてきた奴隷たちが石や材木を運んだり、積み上げたりして造ったんだね。

スフィンクスも同じように石や土で造るのだけれど、王様がこんなに強いぞ、ということを示すために、獣で一番強いライオンの体に王様の顔をつけたのね。高さが20メートルくらい、というから6階建てくらいあったようだね。

手塚治虫の「旧約聖書物語」にこんな絵が出ているよ。



人間がブルドーザーやクレーン車の代わりにするのだから、たいへんです。たくさんの人が牛や馬のように鞭で叩かれながら働かされました。そのようにして働かされる人を「奴隷」といいました。戦争で負けた国の人たちや弱い国の人たちが奴隷にされました。モーセさんの仲間のヘブル人も同じように奴隷として働かされていました。働かせるので、ご飯はたくさん食べられたのですが、一番困ったのは、みんなで神さまを礼拝することが許されなかったことです。いつもエジプト人に馬鹿にされていて誰もが悲しい思いをしていました。

ところが、モーセさんは、エジプトから遠く離れたところにおいて、羊飼いをして平和に暮らしていたのですが、ある日、神さまに呼ばれました。そして、さきほど読まれた神さまの言葉を聞きました。

わたしはまた、エジプト人の奴隷となっているイスラエルの人々のうめき声を聞き、

わたしの^{けいやく}契約を思い起^{おも}こした。それゆえ、イスラエルの^{ひとびと}人々に^い言いなさい。

わたしは^{しゅ}主である。

わたしはエジプトの^{じゅうろうどう}重労働の下からあなたたちを^{みちび}導き出し、^{どれい}奴隷の身分から^{すく}救い出す。

そうです。^{かみ}神さまが

「わたしは、わたしの^{たみ}民であり、あなたの^{なかま}仲間の^{じん}ヘブル人が^{どれい}奴隷として^{くる}苦しめられているのを見ていたよ。わたしは、この^{ひと}人々を^{すく}救い出すから、あなたは、エジプトの^{おうさま}王様のところへ^い行って、^{はな}すこし離れたところで、^{れいはい}みんなと^だ礼拝をしたいので、^だここから出してください、と^{ねが}お願いしなさい。わたしはいつもあなたと^{いっしょ}一緒にいるよ。」

と言われたのです。モーセさんは、はじめは、そんなことができるわけがないと思って、何とか^{おち}逃げようとしていたのですが、^{さいご}最後には、^{かみ}神さまに^{おだ}押し出されて、とうとうお兄さんの^{アロン}アロンさんと^{いっしょ}一緒に、エジプトの^{おうさま}王様、^{ファラオ}ファラオ、と言いますが、この^{ファラオ}ファラオと^{ねば}粘り強く^{はな}話し合っ^あて、^{みな}皆さんもよく^し知っているように、^{ふしぎ}たくさんの^{できごと}不思議な出来事があった^{のち}後、^{じん}ヘブル人を^つ連れ出すことに^{せいこう}成功します。今日は、このように、^{みちび}モーセさんを^{かみ}導いた^{わたし}神さまが^{わたし}私たちにも^{かた}語りかけ、^{みちび}導いてくださっています、ということをお^{はなし}話します。

2001年5月30日、48歳^{ねん}の^{がつ}ひとりの^{にち}お父さんが、^{さい}悪性^{とう}脳腫瘍という^{あくせい}ガンの^{びょうき}病気で、^{しずおか}静岡県^{はまつ}浜松市の^{せいれいはまつびょういん}聖隷^{てんごく}浜松病院で^{かえ}天国に^{ひらまつたつお}帰られました。平松^{はまつせいれいびょういん}達郎さんと^{かんごし}いいます。浜松^{せいれい}聖隷^{びょういん}病院の^{かんごし}看護師さんでした。3人^{にん}のお子さんと^{たんきだいがく}短期大学の^{きょうじゆ}教授をして^つおられる^あお連れ合いの^{みつこ}美津子さんの^{にんかぞく}5人家族でした。





手術前にみんなで。頭のマジックが痛々しい。

病気が分かったのは、5年半前の1995年11月11日でした。14日に手術を受けて、96年1月12日に退院されました。みんな大喜びでお父さんを迎えたのですが、退院したばかりのお父さんは、いきなり強い言葉で

「スーパーファミコン、ゲームボーイ、テレビを片付けろ！マンガもだ！」

と命令しました。子どもたちは、

びっくりして猛反発しました。

「死ぬほど退屈になっちゃうじゃない！」

お父さんは、前よりももっと強い調子で言いました。

「何もやることがないほどたいくつになると、孤独になる、さびしくなる。孤独になると神さまと話ができるんだ。孤独になって神さまと出会え！」

めでたいはずのお父さんの退院の日が、とんでもない嵐の日になってしまいました。でも、お父さんの勢いがとても強かったので、みんなお父さんに押されてしまいました。お母さんが、マンガはすべて、箱に入れてガムテープで封印し、スーパーファミコンなどもお母さんが預かり、テレビは、コードがはずされました。お父さんが、病気の再発で名古屋大学病院で二度目の手術を受けるまでの七ヶ月間は、退屈した時には、トランプや家族マージャンをしたり、散歩したりしました。このことについてお母さんの美津子さんは、次のように書いておられます。

この出来事は、今でも我が家の語り草になっているほど大きなものでした。夫は、病気になった後も、ほとんど感情をぶつけることはなかったのですが、きっと生命飢餓状態となって、病室で言い知れぬほどの孤独を味わっていたのでしょう。そして、神さまと出会い、語り合い、支えられていたのだと思います。そのことを、父親のメッセージとして子どもたちに伝えたかったのでしょう。

長女が山形県の過疎地にある小さな高校に進学を希望し、自分で願書を書いた時、「この学校で何をしたいか」という質問に、こう答えていました。

「豊かな自然の中で、自分と向き合い、神さまに会いたい。」

そして、次女もその同じ高校を選び、今ここで二人で学んでいます。孤独に耐えられるような自分でありたいと願っての決断だったのではないのでしょうか。夫が伝えたかったことを、子どもたちは自分の

ものにしていこうとしています。

(2000年6月1日)

(平野美津子「たくさんの愛をありがとう」、教団出版局、2003年5月20日、初版、53頁)

やさしい人たちですね。お父さんが「病室で言い知れぬほどの孤独を味わい」、「神さまと出会い、語り合い、支えられた」ことが、家族のみんなに生かされています。誰かが、本気になって、神さまと向き合うと神さまが応えてくださって、周囲の人々に影響が及びます。そして、みんなが「あなたたちはこうして、わたしがあなたたちの神、主であり、あなたたちをエジプトの重労働の下から導き出すことを知る。」(出エジプト記6章7節)ことになるのです。

この手術を受ける前の日、11月13日に、お母さんが面会に行くと、お父さんは、もう丸坊主になっていて、頭のとっぺんには、マジックで7×12センチほどの大きな印がつけられていました。手術で頭蓋骨を切る大きさがよかったようです。お母さんは、ドキッとして少し心配になりました。もう一度、元気な姿を見られるだろうか、体が不自由になったり、言葉がちゃんとしゃべれなくなるのではないかなど……。でも、お父さんは子どもたちをベッドに乗せて、何事もないかのように笑っていました。写真のとおりです。子どもたちを帰らせた後で、お母さんは一冊のメモ帳を渡して、

「手術を控えて、子どもたちにお父さんからのメッセージを書いてほしい」と頼みました。

「もしかしたら、最後のメッセージになるかもしれないから」と冗談っぽく言っても、お父さんは、にこにこしていました。

次の日、手術の当日です。お父さんが手術室に入った後で、お母さんは昨日頼んだメッセージを探しました。すぐにメモ帳は見つかり、恐る恐るページをめくったお母さんは、ひどく拍子抜けしてしまいました。

「はんなへ……」

たったそれだけでした。「はんな」とは、長女のお名前です。お父さんが書けなかった気持ちを想像して、このメモ帳のことは子どもさんたちには言い出せないでいました。

「お父さんは、私たちのことをちっとも考えてくれなかった」

と思われたら、悲しくなるからです。

4年ほど経ったころ、長女にそのメモ帳を見せました。

「ふふふ、お父さんだ。これって、ほんとうにお父さんらしいね」

と彼女は笑っていました。意外な、その暖かい反応にお母さんはほっとします。そして、お母さんもお父さんはそういう人なんだ、と思っていたのです。お母さんは、そのときのことをこう書いています。

大きな病気になって、家族に何かを残そうと、一人ひとりの子どもにメッセージを書いておこうとする人もいるでしょう。仕事の始末をしたり、未完の仕事を完結しておこうとする人、いろいろでしょうね。

でも、夫は、そんなかっこいいことはできません。「あとのことは心配要らない、すべて神さまに任せればいい」、そんな気楽で、自由な人です。そんな彼に、「子どもたちへのメッセージ」なんて願った私が間違っていました。(前掲書、105,106頁)

そのお父^{とう}さんが、ある本^{ほん}を^よ読んで、みんなに話^{はな}してくれた中^{なか}で、アフリカの^{スワヒリ}語^ごで「ハクナ・マタタ」という言葉^{ことば}を^{おし}教えてくれました。「心配^{しんぱい}ないさ」という意味^{いみ}だそうです。それから、その「ハクナ・マタタ」がこの家族^{かぞく}の中^{なか}で、大流行^{おおはやり}になりました。お母^{かあ}さんが将来^{しょうらい}の不安^{ふあん}を口^{くち}にすると、子どもたち^{こどもたち}やお父^{とう}さんから「ハクナ・マタタ」と言^いわれるほどでした。

そういえば、改訂^{かいてい}子どもさんびかの139番^{ばん}に、「ハクナ・ワカイト・サ・イエス」という歌^{うた}がありましたね。アフリカのジンバブエの^{ショナ}語^ごで、「イエスさまのようなかたは、ほかにはおられない」という意味^{いみ}だそうです。「ハクナ」って、アフリカ^{ひと}の人がよく使^{つか}う言葉^{ことば}なのだろうか。

それから、何年^{なんねん}か経^たって、ディズニー映画^{じょうえい}「ライオン・キング」が上映^{うた}されたとき、歌^{うた}われた歌^{うた}の中に、この「ハクナ・マタタ」という言葉^{ことば}が出てきて、みんな大喜^{おおよろこ}びしました。そして、お母^{かあ}さんは、こう書^かいています。

ハクナ・マタタ、こんなふう^{じんせい}に人生^すを過^あごすことができたなら、どんなに幸^{しあわ}せでしょうか。ハクナ・マタタ、神^{かみ}さまにすべてをゆだねている夫^{おと}が今^{いま}まさに、この境地^{きょうち}なんでしょうね。ハクナ・マタタ、彼^{かれ}は私^{わたし}たちに、「こうあれ」って伝^{つた}えようとしているんだと思います。自然^{しぜん}の流れ^{なが}の中に人生^{なか}を捉^{とら}える、アフリカ^{こうだい}の広^{だい}大な大地^{だいち}の中^{なか}から生^うまれた言葉^{ことば}なんでしょうね。……。(2000年11月30日)

(前掲書^{ぜんけいしょ}、108頁^{ぺいじ})

「神^{かみ}さまが見^みているよ」、だから、「ハクナ・マタタ」で行^いきましょう。

お祈^{いの}りします。

天^{てん}のお父^{とう}さま、

モーセ^{みまも}が、あなたに見^み守^{まも}られたように、そして平野^{ひらの}美津子^{みつこ}さんのご一^い家^かを見^み守^{まも}られたように、私^{わたし}たちも見^み守^{まも}られています。ありがとございました。イエスさまのお名^な前^{まえ}によって祈^{いの}ります。アーメン。